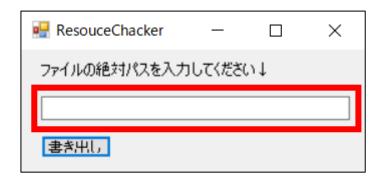
## ResouceChacker

リソースマネージャを利用しやすくするツールです。

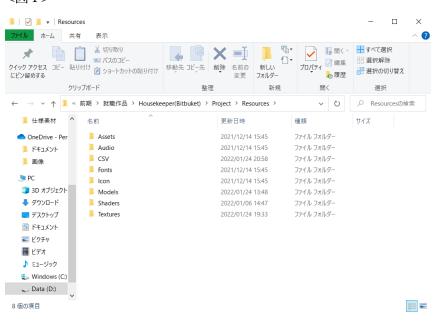
この資料の一番最後に私のリソースマネージャの使用方法を記しておきます。



### <使い方>

- 1) 赤四角(□)の中にゲームのプロジェクトのリソースまでの絶対パスを入力します。(図1参照)
- 2) [書き出し]をクリックし、ファイルの保存場所及び名前を指定してファイルを保存します。
- 3) プロジェクトの中に保存したヘッダーファイルと実行ファイルを追加します。

### <図1>

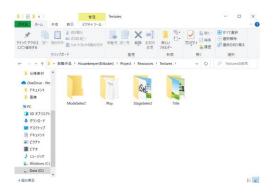


#### 入力例)

D:\Y授業\Y2 年\Y前期\Y就職作品\YHousekeeper(Bitbuket)\YProject\YResources

※Models ディレクトリ、Textures ディレクトリ内に各シーンごとにリソースを分けておくこと!

### 例)



# <保存されるファイルの各種項目> {ヘッダーファイル}

- □ ・・・リソースを管理する列挙型の名前を管理する列挙型
- □…リソースを用いるために必要な情報をもつ構造体
- □・・・各リソースの番号を管理する列挙型(□の数だけ列挙型があります。)

### {実行ファイル}

主にファイルのパスを管理しています。 触る必要はありません。



この部分は触らないでください→



### <私のリソースマネージャ>

- ・テクスチャとモデルをそれぞれ連想配列で管理しています。

- ・Load 関数を呼ぶことによって特定のリソースのみを読み込むことができます。
- ・引数には追々説明する構造体を管理する列挙型(以下、{列挙型 B}とします。)を入れます。

```
By Land By L
```

<使用例>

### {リソースの読み込み}

・Load 関数の引数に□の列挙型内の読み込みたい列挙型名を入れます。

・こうすることで各種列挙型のリソースを読み込むことができます。

# {使用}

Int型に変換した■の列挙型の要素を入れることで、リソースを取得することができます。

※[参考ファイル]内の[Test]ディレクトリ内の Resouces ディレクトリを用いて試すことができます。